

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和7年1月23日(木)
感染症対策センター
(衛生環境研究所)

令和6年第49週から第52週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(49週～52週)4週 (R6.12.2～R6.12.29)	前回(45週～48週)4週 (R6.11.4～R6.12.1)	前々回(41週～44週)4週 (R6.10.7～R6.11.3)
1 インフルエンザ (3,112) [↑2,685]	1 インフルエンザ (427)	1 手足口病 (510)
2 感染性胃腸炎 (459) [↑100]	2 感染性胃腸炎 (359)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (319)
3 新型コロナウイルス感染症 (444) [↑281]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (292)	3 感染性胃腸炎 (290)
4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (254) [↓38]	4 手足口病 (169)	4 新型コロナウイルス感染症 (182)
5 伝染性紅斑 (62) [↑32]	5 新型コロナウイルス感染症 (163)	5 インフルエンザ (65)
6 その他 (149) [↑13]	6 その他 (136)	6 その他 (103)
(合計 4,480)	(合計 1,546)	(合計 1,469)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は4,480件であり、190%(2,934件)の増となった。

増加した疾病	減少した疾病
インフルエンザ 629%	手足口病 78%
新型コロナウイルス感染症 172%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 13%
伝染性紅斑 107%	マイコプラズマ肺炎 5%
感染性胃腸炎 28%	

3 コメント

【インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症】

インフルエンザについては、1月7日に県内全域に警報を発令しました。流行が拡大していますので注意が必要です。

新型コロナウイルス感染症は12月頃から増加傾向であり、集団感染事例も散発しています。手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。

【伝染性紅斑】

12月11日から県内全域に警報を発令しています。飛沫や手指を介して感染し、原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。特に、妊娠中に感染した場合、胎児へ影響する可能性があるため、注意が必要です。

【マイコプラズマ肺炎】

全国的に感染者数が増加しており、本県においても10月以降増加しています。手洗い、咳エチケット及びタオルの共用を避けるなどの感染予防をお願いします。

【百日咳】

小学生から高校生を中心に流行が続いています。長く続く咳が特徴で、感染力が非常に強いため、注意が必要です。有効な予防法は予防接種であり、乳幼児期に定期接種を受けることが重要ですが、ワクチンの免疫効果は4～12年で弱まってくるといわれており、接種済みの方でも感染することがあります。ワクチン未接種の新生児や早期乳児が感染すると重症化しやすいため、赤ちゃんや妊産婦のおられるご家庭では、周囲の家族などが感染源とならないよう特に注意してください。咳などの症状がある場合は早めに受診し、手洗い、マスクの着用、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

県内全域に警報を発令しています。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

また、まれにA、B、G群等の溶血性レンサ球菌の感染によって、突発的に発症し、重い症状を引き起こし、急速に多臓器不全が進行することがある「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全国で増加しています。主に大人が発症し、県内でも確認されています。傷口から感染する場合がありますため、土に触れた手などの不潔な手で直接傷口を触らないなど、小さな傷でも清潔に保ち、手足の腫れや痛み、発熱など感染の兆候が見られる場合は直ちに医療機関を受診しましょう。

【梅毒】

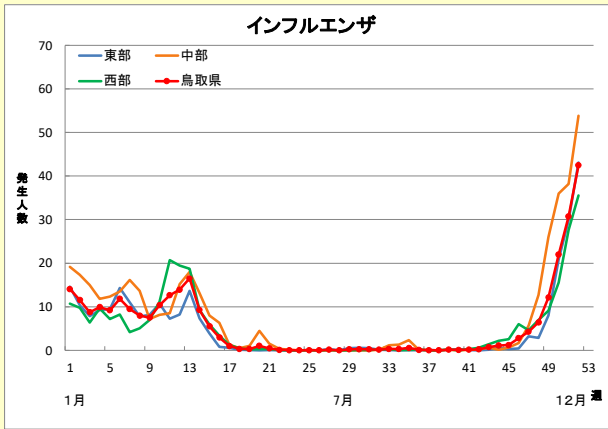
令和6年は、過去最多となる41件の感染が報告されており、引き続き注意が必要です。感染した場合は、適切な治療が必要であり、早期発見することで感染症拡大防止につながります。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

令和6年第49週～第52週の報告患者数

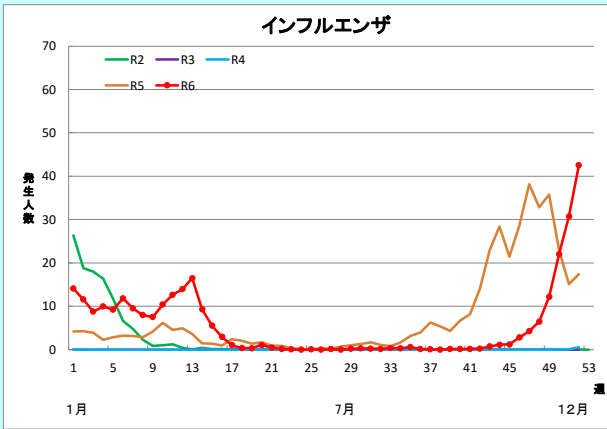
令和7年1月7日 作成

区 分	今回報告患者数 第49週～第52週(4週分)					前回報告患者数 第45週～第48週(4週分)				前々回報告患者数 第41週～第44週(4週分)				前回比 増 減	令和6年 患者数 累 計
	東部	中部	西部	計	増減	東部	中部	西部	計	東部	中部	西部	計		
	(12)	(6)	(11)	(29)		(12)	(6)	(11)	(29)	(12)	(6)	(11)	(29)		
インフルエンザ/COVID-19定点数	(12)	(6)	(11)	(29)		(12)	(6)	(11)	(29)	(12)	(6)	(11)	(29)		
1 インフルエンザ	1,222	924	966	3,112	2,685	81	124	222	427	10	7	48	65	629%	8,459
2 新型コロナウイルス感染症	131	140	173	444	281	50	63	50	163	70	43	69	182	172%	9,296
小児科定点数	(8)	(4)	(7)	(19)		(8)	(4)	(7)	(19)	(8)	(4)	(7)	(19)		
3 咽頭結膜熱	1	11	10	22	7	1	4	10	15	2	3	20	25	47%	802
4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	177	25	52	254	-38	186	40	66	292	187	64	68	319	-13%	6,040
5 感染性胃腸炎	205	109	145	459	100	187	118	54	359	150	84	56	290	28%	4,749
6 水痘	11	6	5	22	16	4	0	2	6	3	0	0	3	267%	136
7 手足口病	20	2	16	38	-131	59	48	62	169	123	123	264	510	-78%	2,668
8 伝染性紅斑	6	0	56	62	32	4	0	26	30	0	0	11	11	107%	118
9 突発性発疹	2	4	9	15	0	3	3	9	15	3	4	10	17	0%	209
10 ヘルパンギーナ	0	0	0	0	-1	1	0	0	1	1	0	5	6	-100%	401
11 流行性耳下腺炎	0	0	0	0	-1	0	1	0	1	0	0	0	0	-100%	16
12 RSウイルス感染症	0	1	1	2	-4	3	0	3	6	8	3	7	18	-67%	821
眼科定点数	(2)	(1)	(2)	(5)		(2)	(1)	(2)	(5)	(2)	(1)	(2)	(5)		
13 急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	1
14 流行性角結膜炎	3	2	0	5	-7	1	6	5	12	4	0	1	5	-58%	64
基幹定点数	(2)	(1)	(2)	(5)		(2)	(1)	(2)	(5)	(2)	(1)	(2)	(5)		
15 細菌性髄膜炎	0	0	0	0	-2	0	1	1	2	0	0	0	0	-100%	11
16 無菌性髄膜炎	1	0	1	2	-1	0	0	3	3	2	0	0	2	-33%	26
17 マイコプラズマ肺炎	21	17	4	42	-2	17	22	5	44	12	4	0	16	-5%	114
18 クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	1
19 感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0%	16
合 計	1,800	1,242	1,438	4,480	2,934	597	431	518	1,546	575	335	559	1,469	190%	33,948

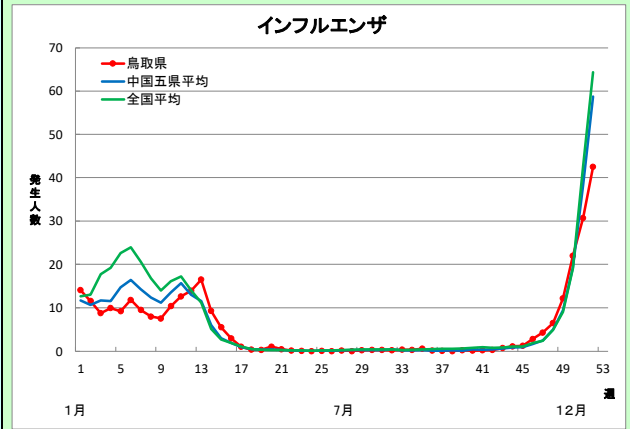
地区発生状況グラフ(定点当たり)



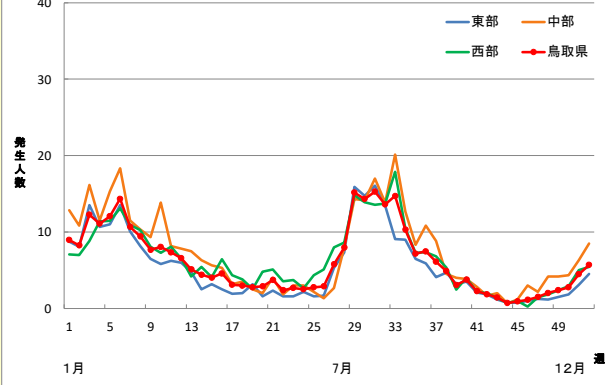
年次別発生状況グラフ(定点当たり)



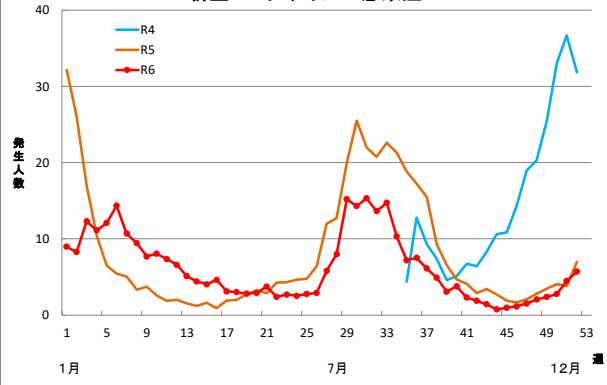
中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)



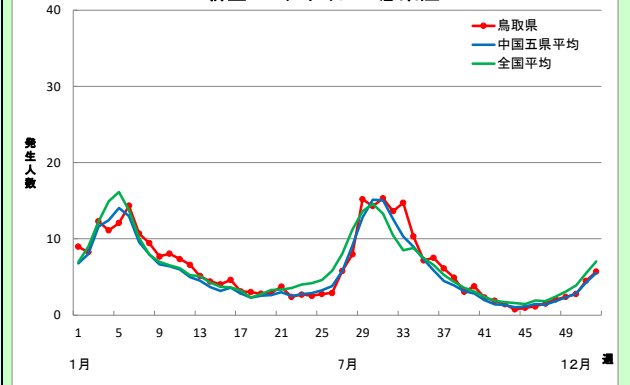
新型コロナウイルス感染症



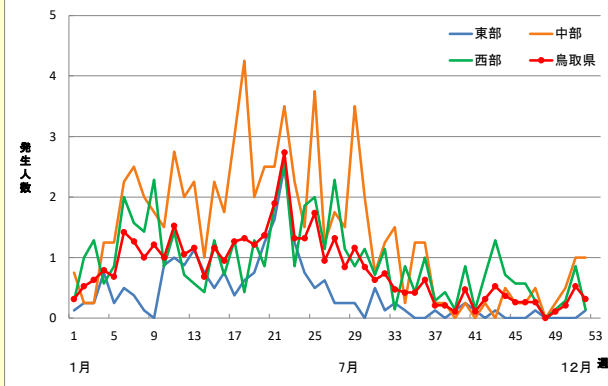
新型コロナウイルス感染症



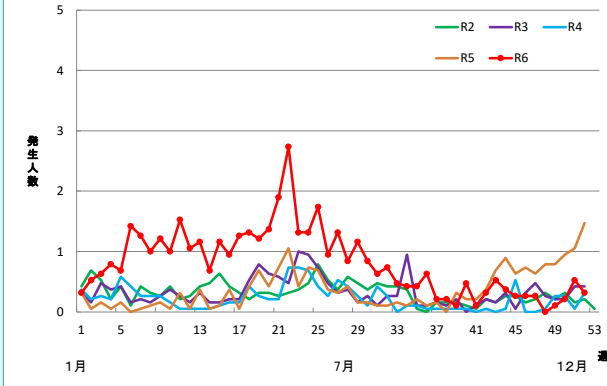
新型コロナウイルス感染症



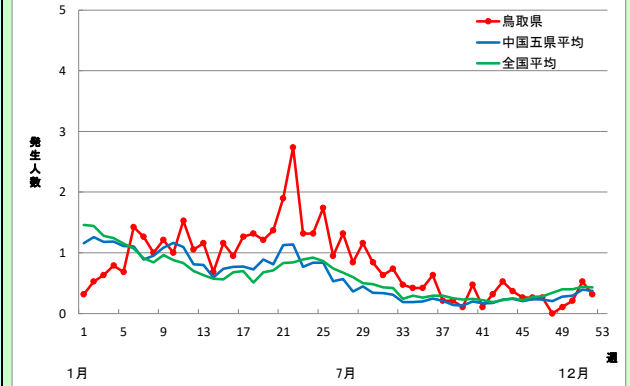
咽頭結膜熱



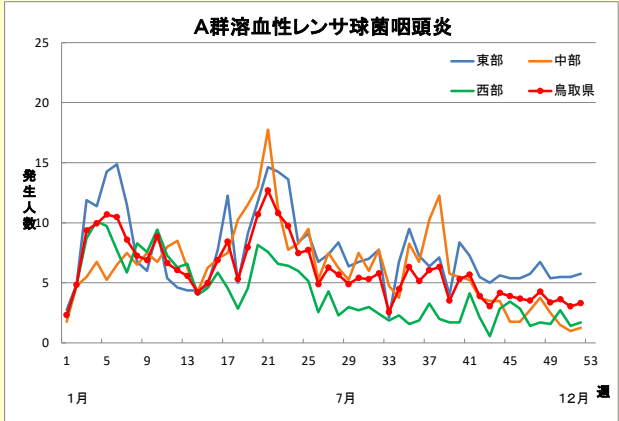
咽頭結膜熱



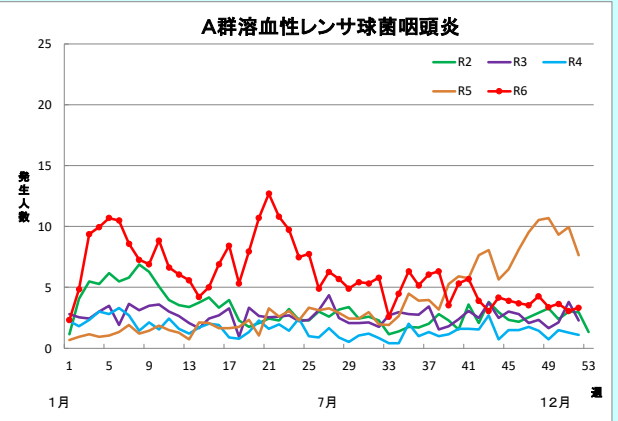
咽頭結膜熱



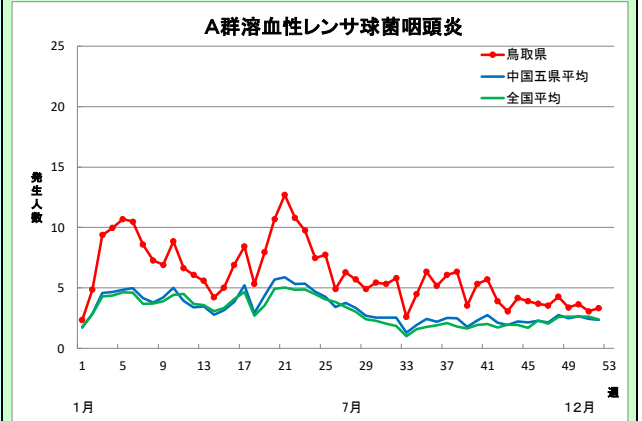
地区発生状況グラフ(定点当たり)



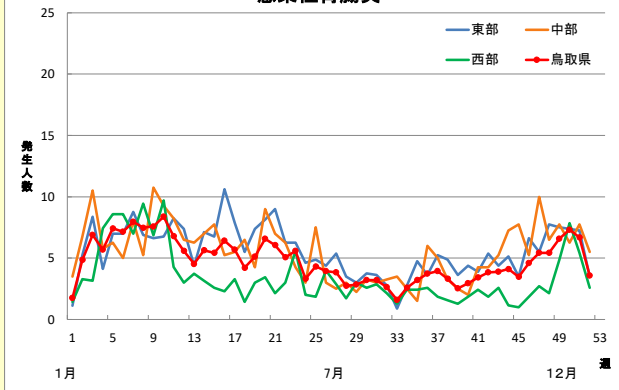
年次別発生状況グラフ(定点当たり)



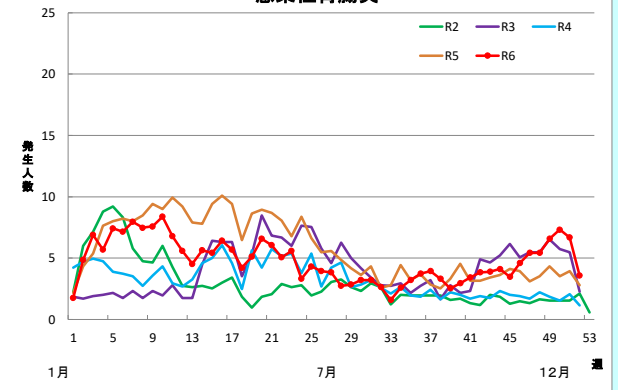
中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)



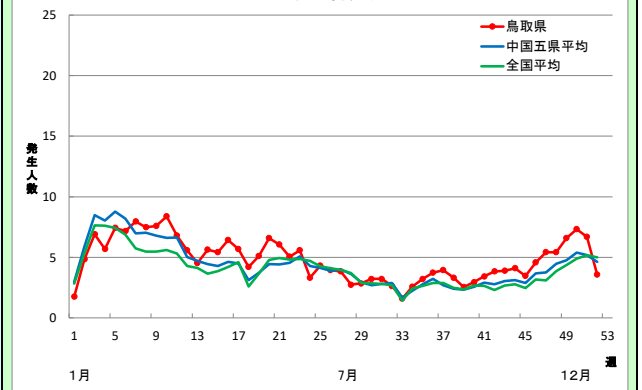
感染性胃腸炎



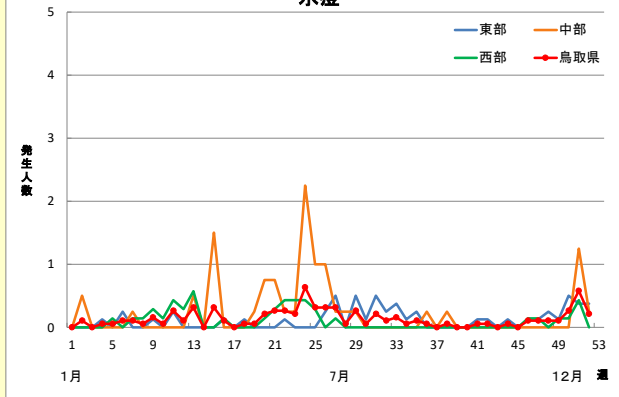
感染性胃腸炎



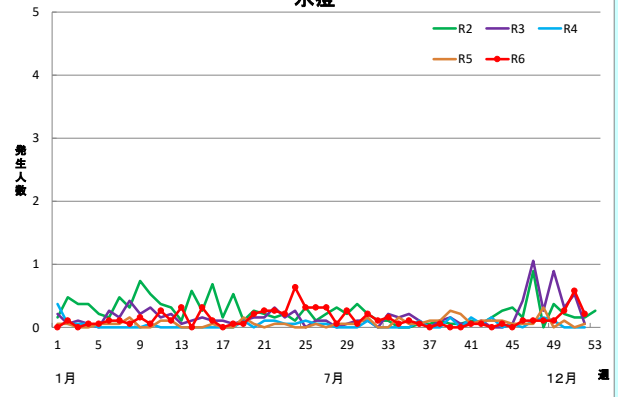
感染性胃腸炎



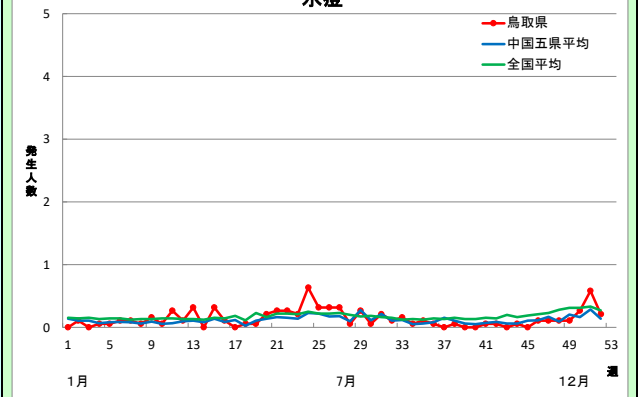
水痘



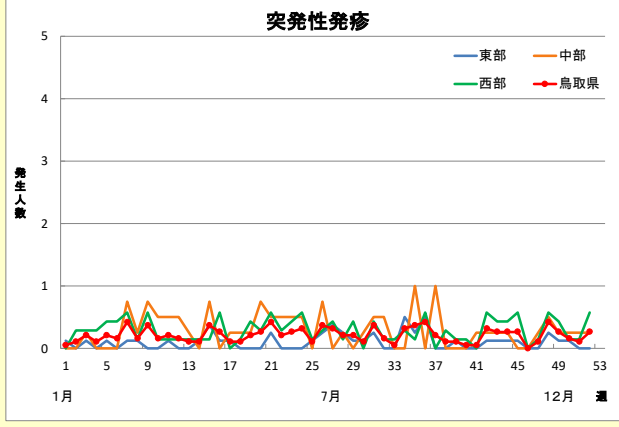
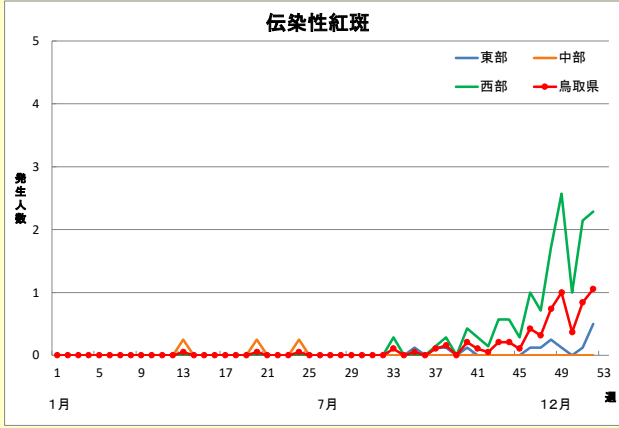
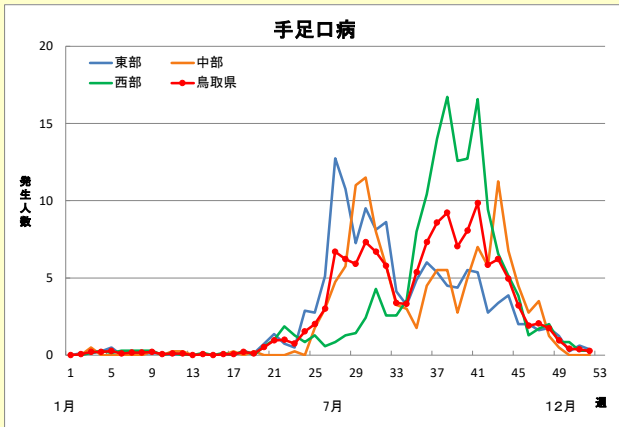
水痘



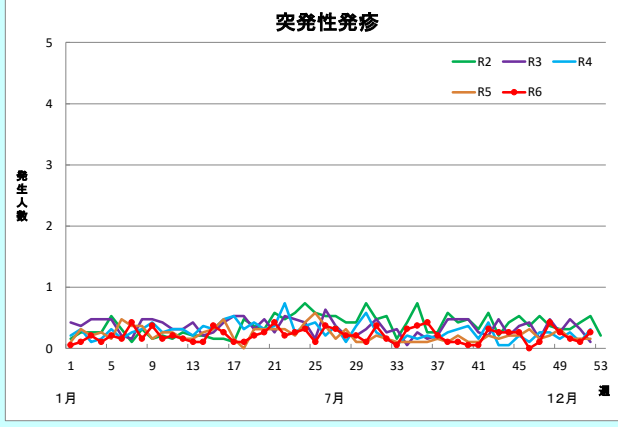
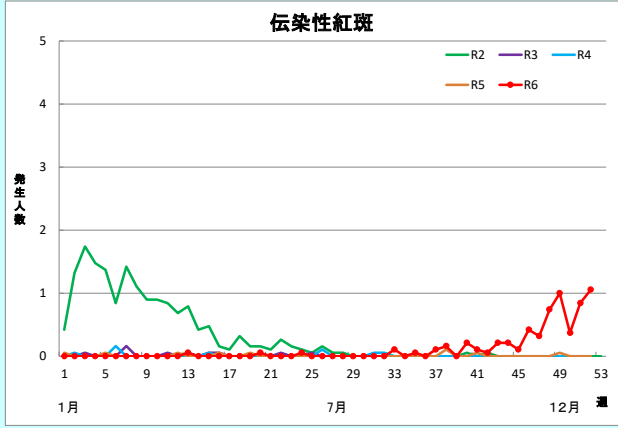
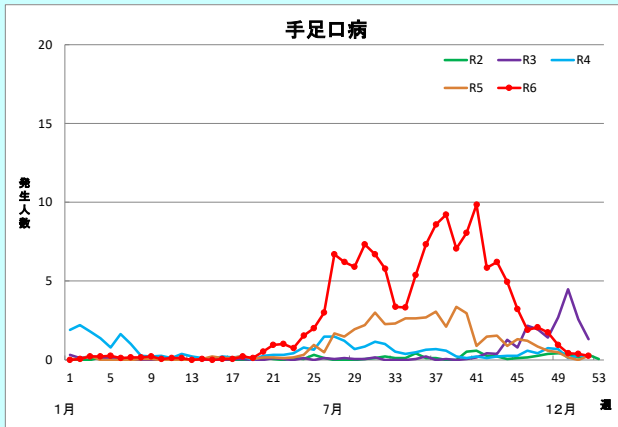
水痘



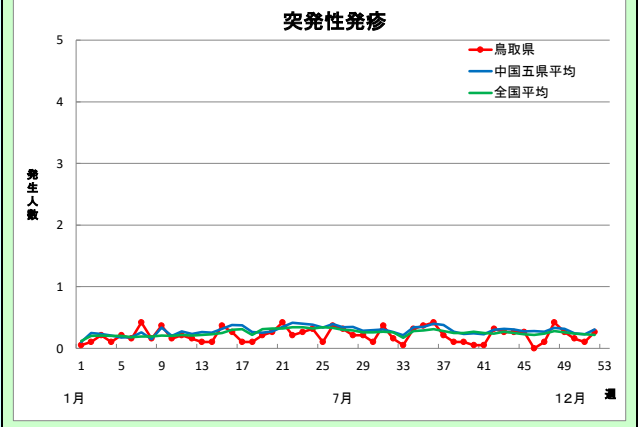
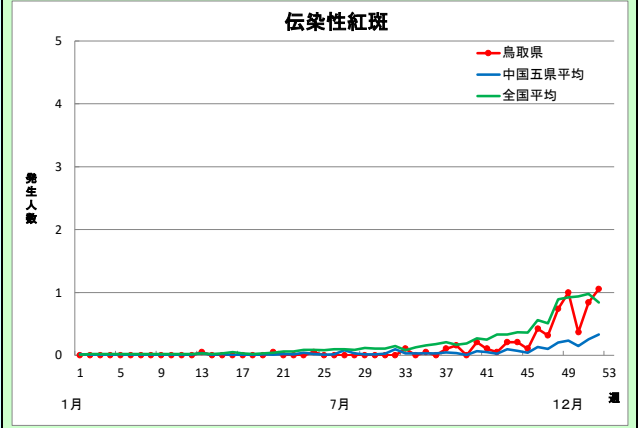
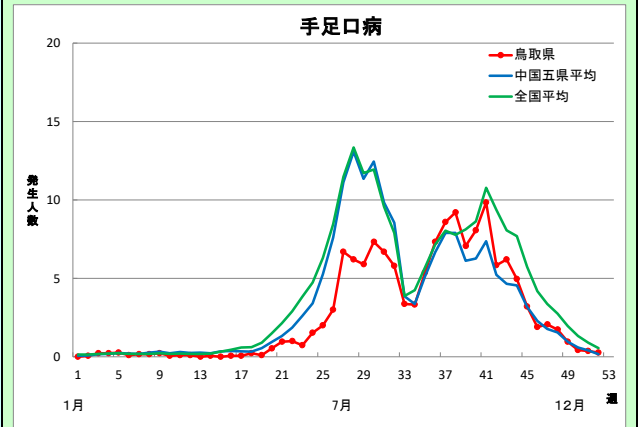
地区発生状況グラフ(定点当たり)



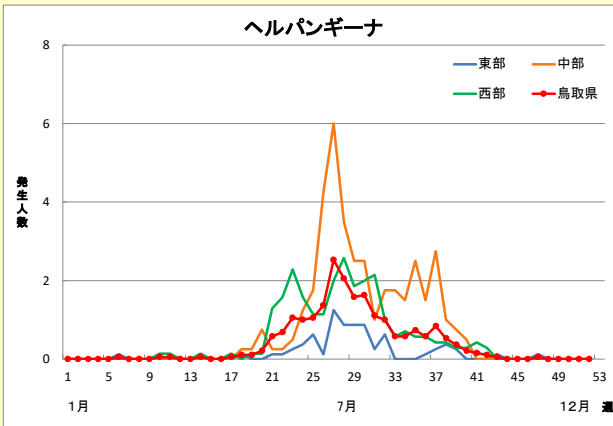
年次別発生状況グラフ(定点当たり)



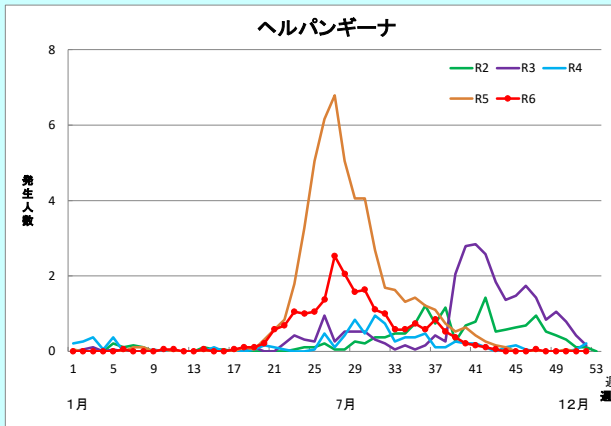
中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)



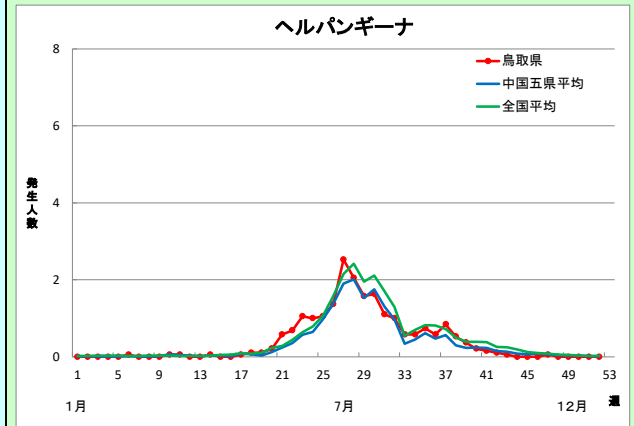
地区発生状況グラフ(定点点あたり)



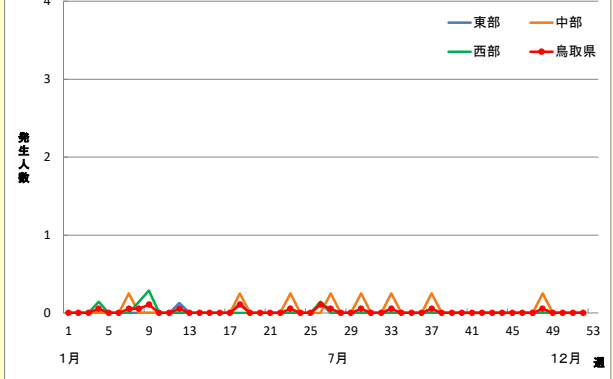
年次別発生状況グラフ(定点点あたり)



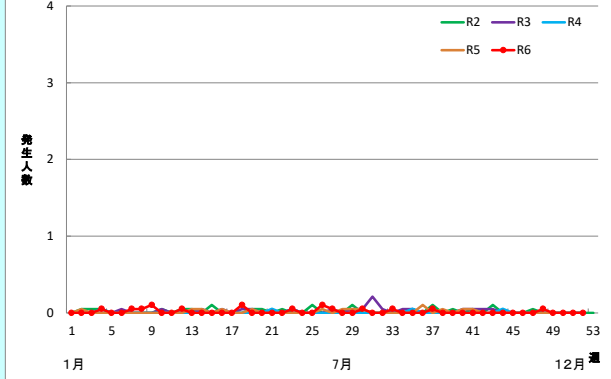
中国五県平均・全国平均との比較(定点点あたり)



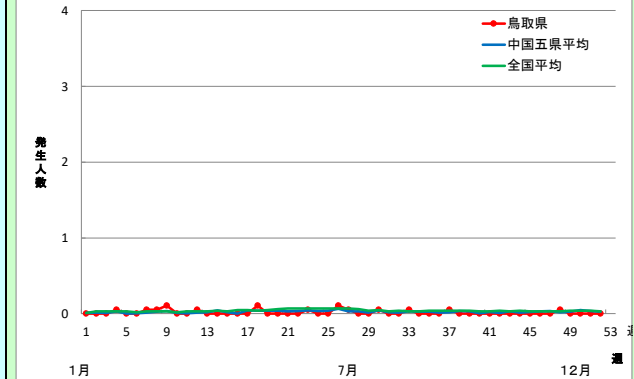
流行性耳下腺炎



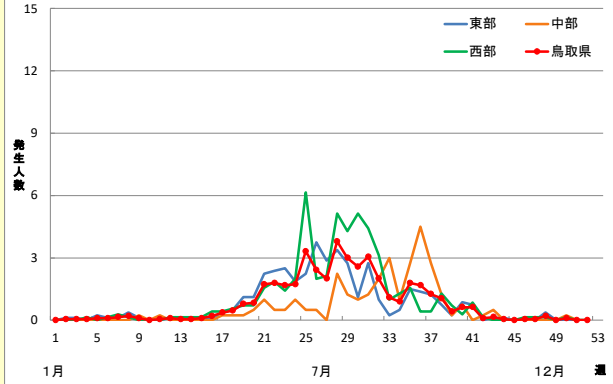
流行性耳下腺炎



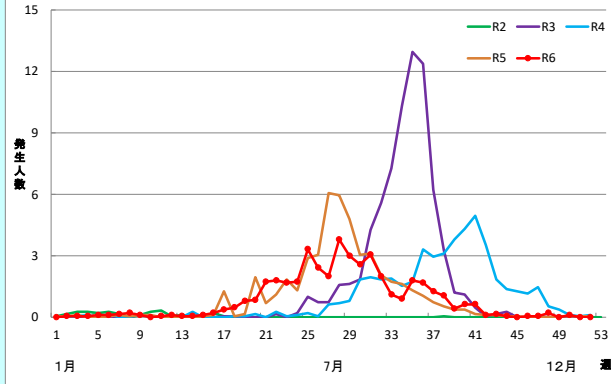
流行性耳下腺炎



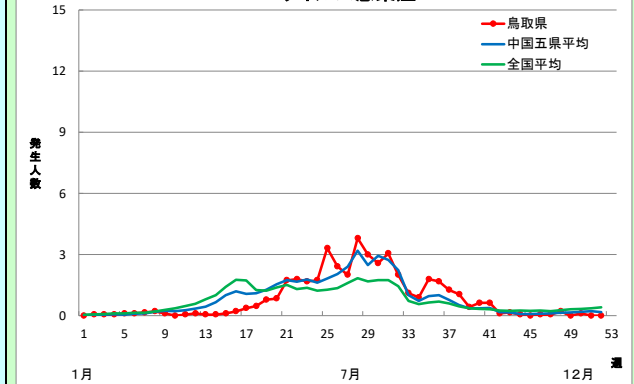
RSウイルス感染症



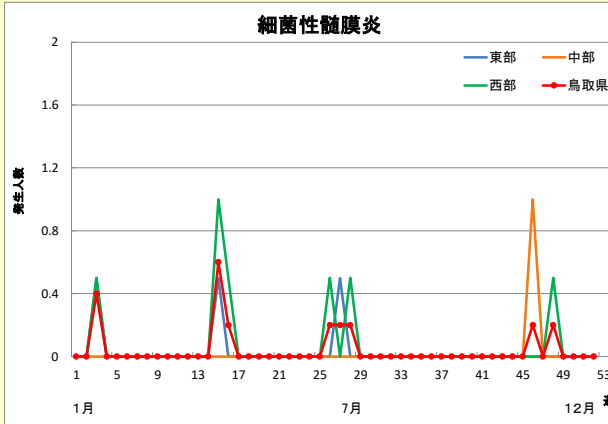
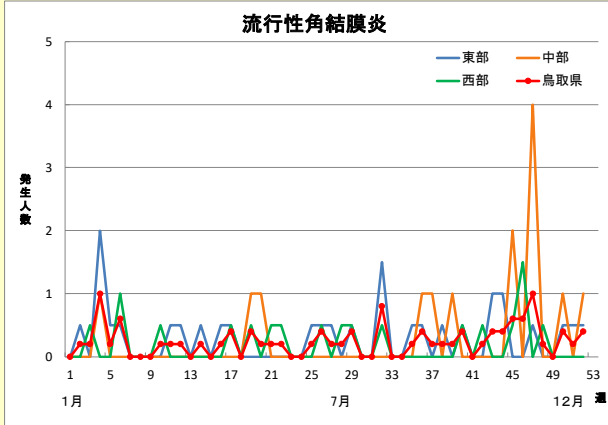
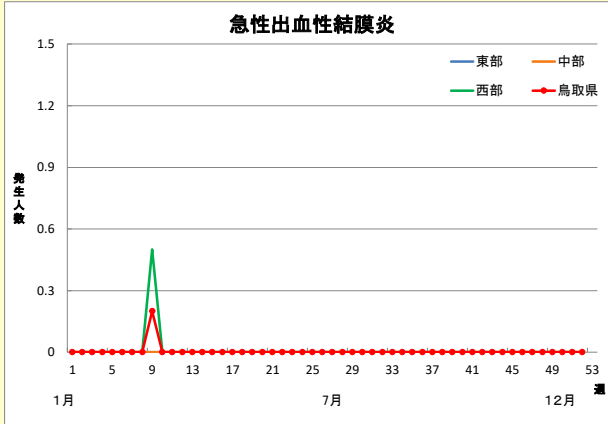
RSウイルス感染症



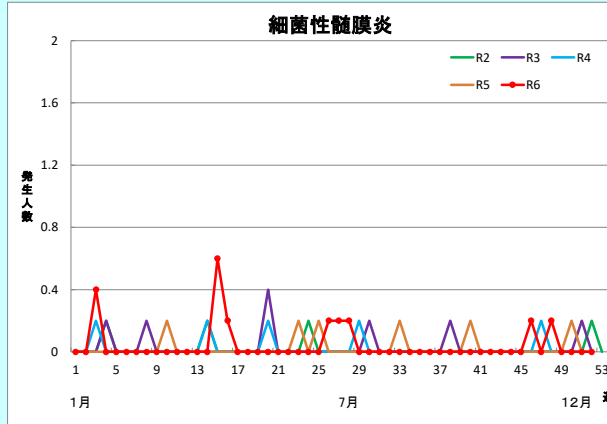
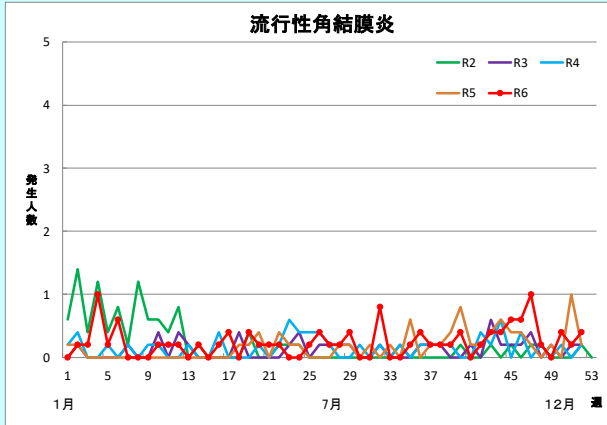
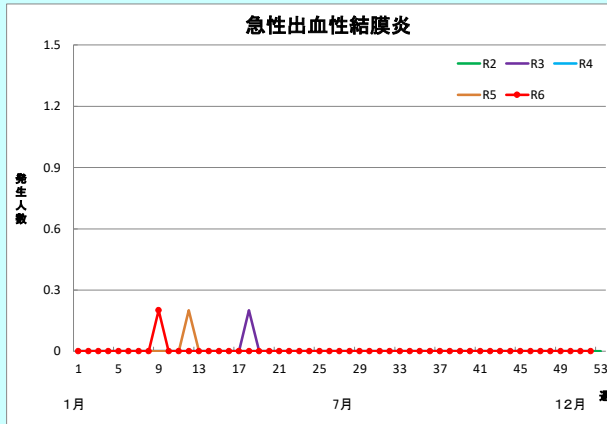
RSウイルス感染症



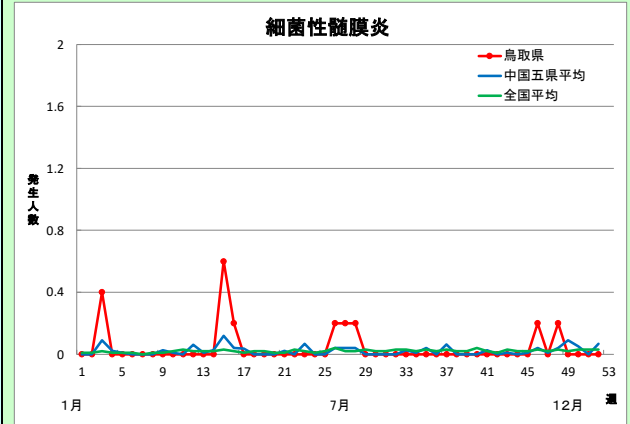
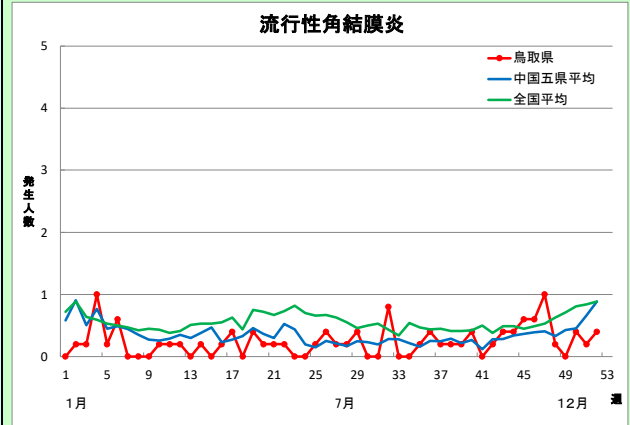
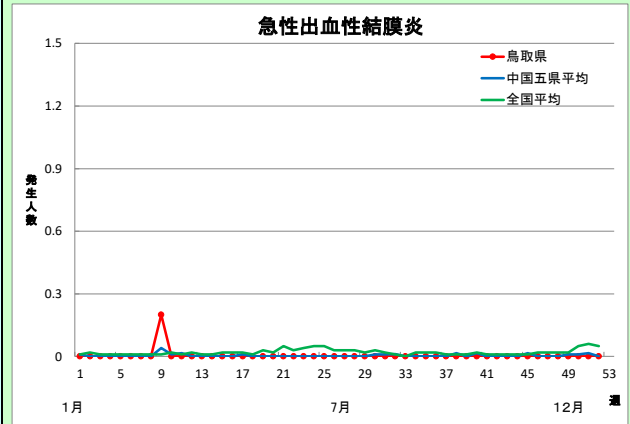
地区発生状況グラフ(定点当たり)



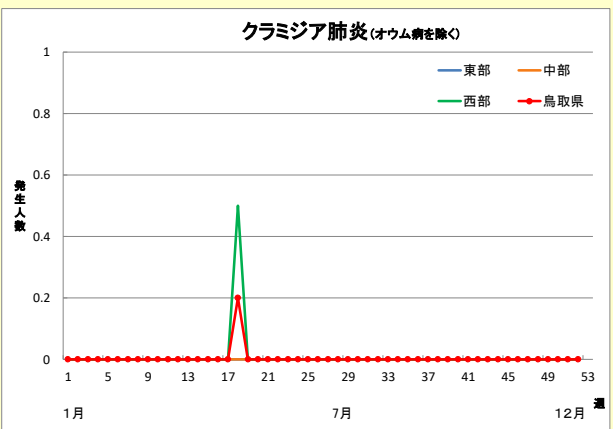
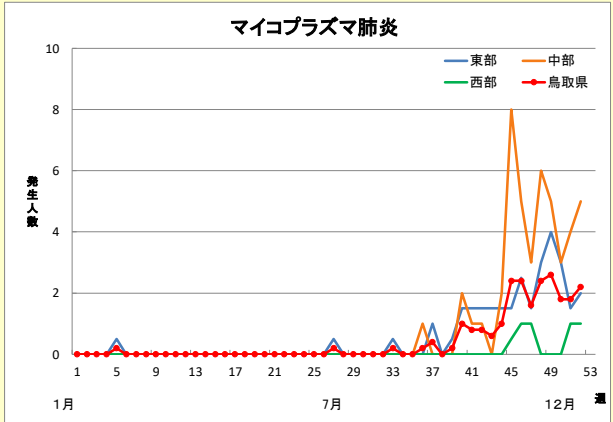
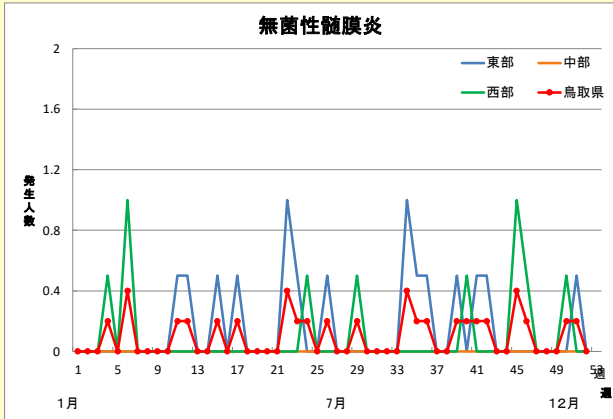
年次別発生状況グラフ(定点当たり)



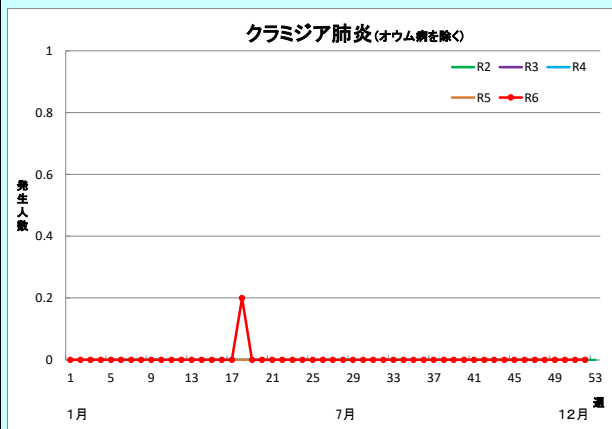
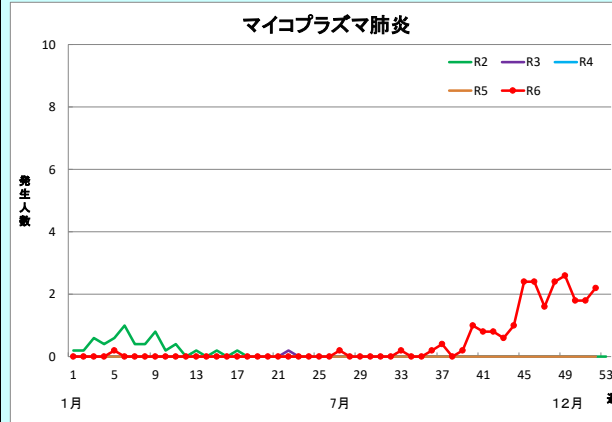
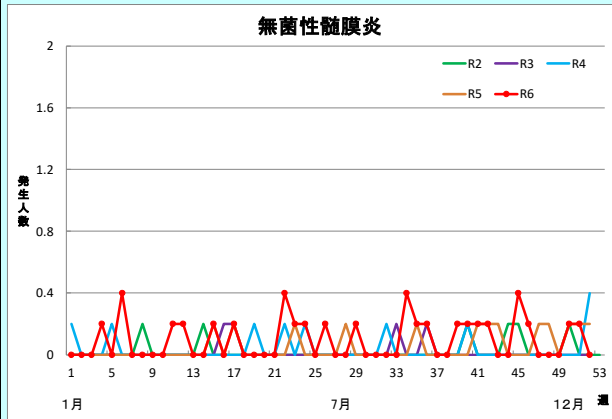
中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)



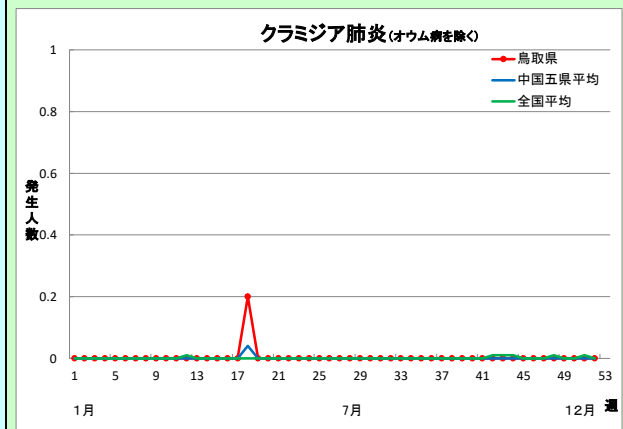
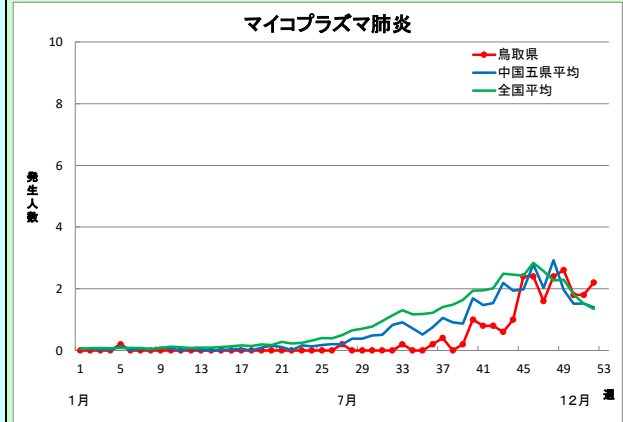
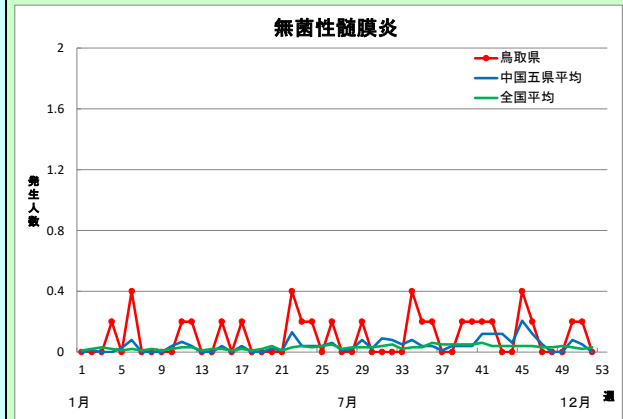
地区発生状況グラフ(定点当たり)



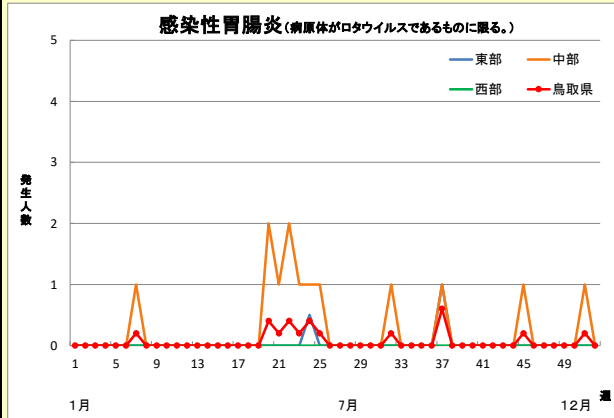
年次別発生状況グラフ(定点当たり)



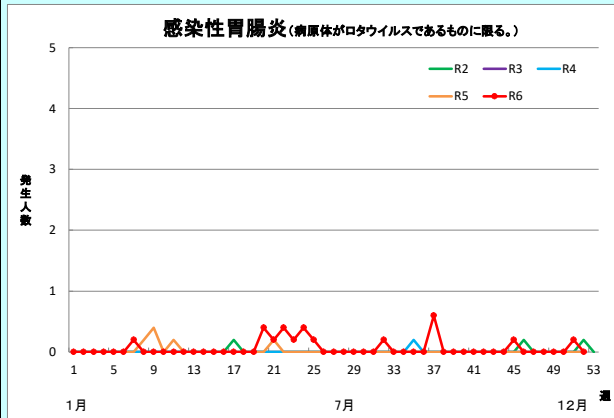
中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)



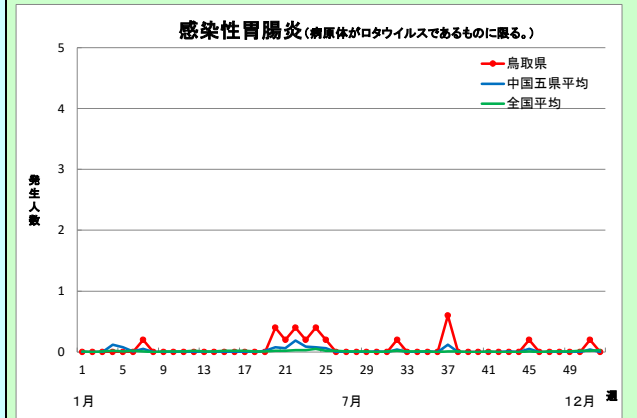
地区発生状況グラフ(定点当たり)



年次別発生状況グラフ(定点当たり)



中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)



注)新型コロナウイルス感染症は、令和5年第18週(5/1~5/7)までは全数報告分のうち定点医療機関からの報告件数を元に算出。

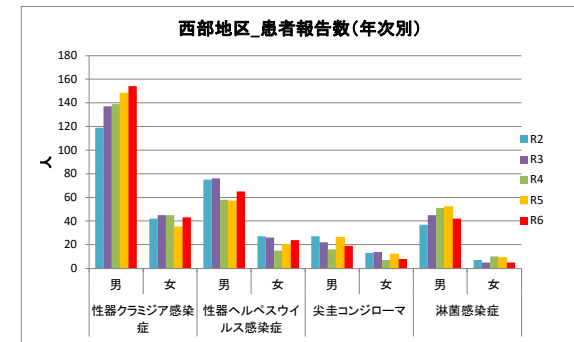
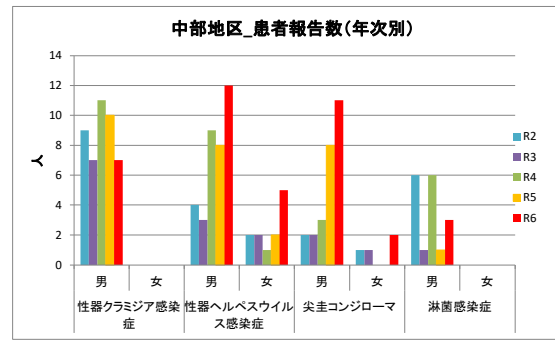
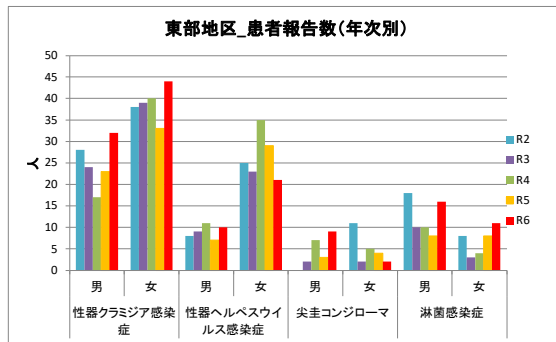
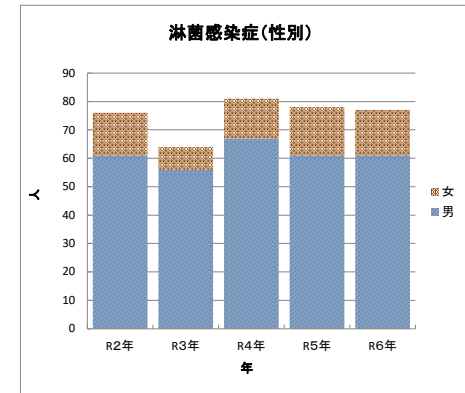
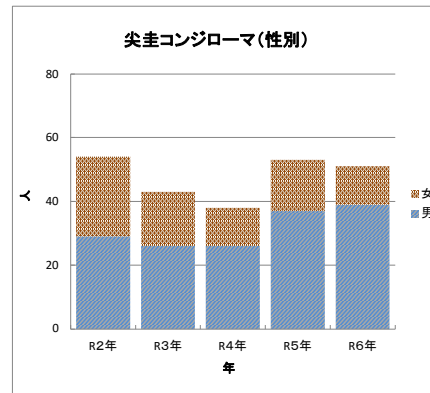
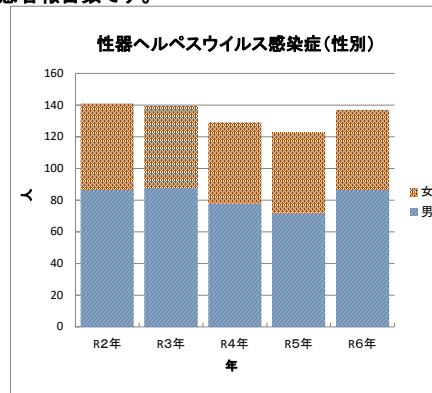
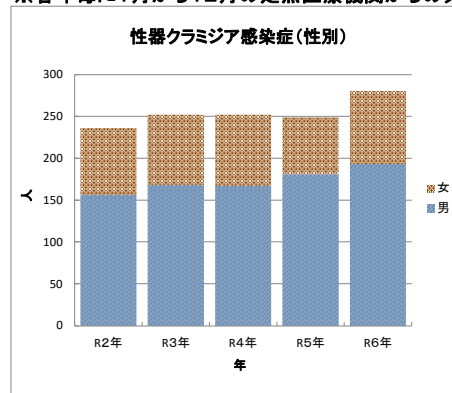
令和5年

定 点 数	疾 病 名	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1~12月計		対前年累計比率															
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計												
S	性器クラミジア感染症	10	5	15	14	6	20	8	3	11	22	6	28	12	7	19	13	6	19	17	9	26	19	6	25	25	7	32	13	3	16	14	6	20	14	4	18	181	68	249	108%	80%	99%
T	性器ヘルペスウイルス感染症	5	2	7	4	6	10	4	2	6	9	6	15	5	2	7	6	3	9	11	3	14	4	4	8	3	6	7	6	13	10	7	17	72	51	123	92%	100%	95%				
D	尖圭コンジローマ	3	1	4	1	0	1	0	1	5	1	6	4	0	4	9	1	10	3	2	5	2	0	2	1	4	5	4	3	7	1	0	1	4	3	7	37	16	53	142%	133%	139%	
7	淋菌感染症	5	1	6	3	0	3	9	2	11	8	0	8	6	3	9	5	2	7	4	1	5	1	3	4	5	1	6	7	1	8	3	1	4	61	17	78	91%	121%	96%			
基	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6	5	11	4	1	5	4	4	8	4	5	9	9	7	16	3	4	7	5	1	6	9	3	12	4	4	8	6	4	10	6	3	9	6	1	7	66	42	108	103%	111%	106%
幹	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	2	1	0	1	1	1	1	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	6	4	10	100%	100%	100%		
5	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	—	—	—		

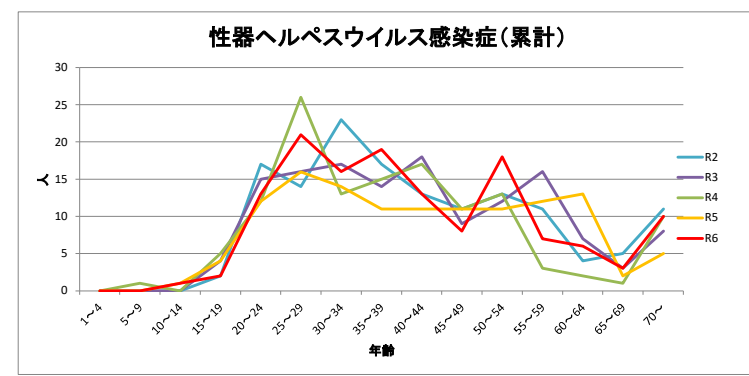
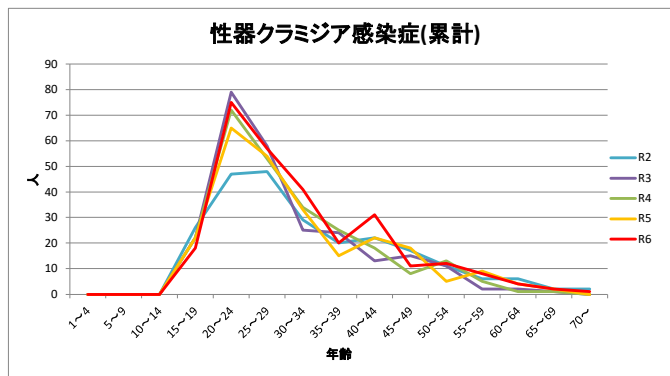
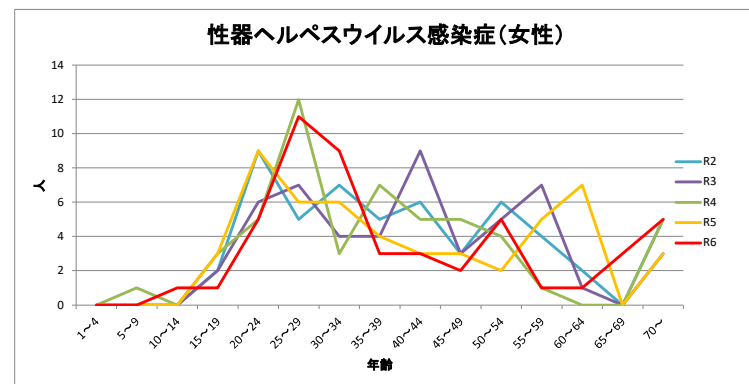
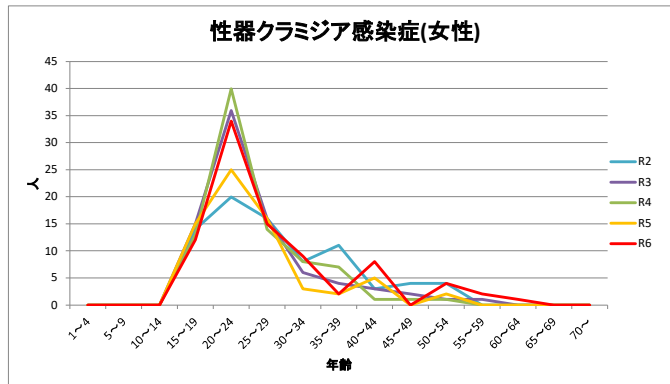
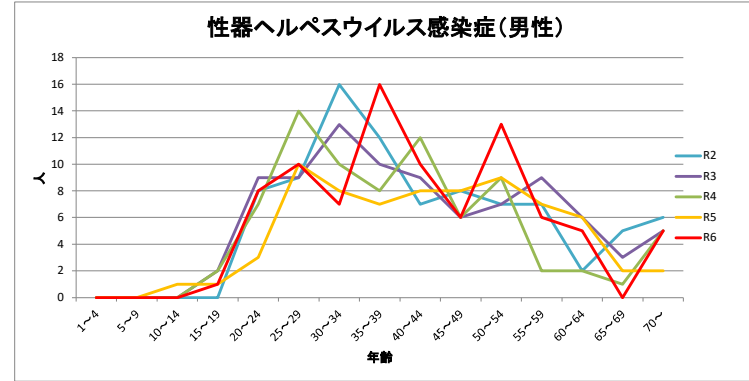
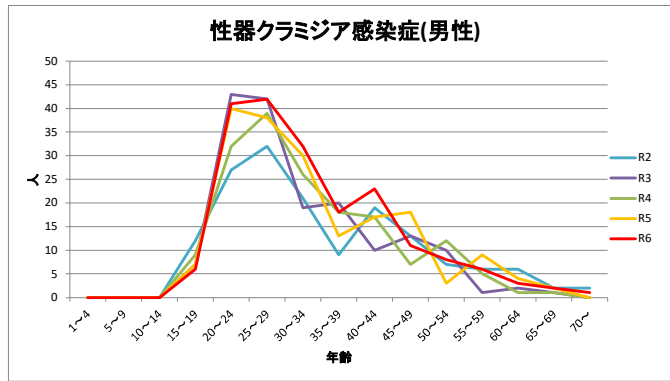
令和6年

定 点 数	疾 病 名	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1~12月計		対前年累計比率															
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計												
S	性器クラミジア感染症	9	6	15	10	11	21	27	10	37	14	8	22	16	5	21	16	5	21	21	12	33	27	5	32	15	5	20	10	10	20	16	7	23	12	3	15	193	87	280	107%	128%	112%
T	性器ヘルペスウイルス感染症	7	6	13	5	2	7	10	4	14	6	3	9	7	3	10	6	6	12	7	3	10	15	7	22	7	4	11	8	7	15	3	2	5	6	3	9	87	50	137	121%	98%	111%
D	尖圭コンジローマ	7	0	7	5	2	7	2	1	3	2	3	5	3	1	4	3	2	5	2	0	2	2	0	2	6	0	6	2	2	4	0	1	1	5	0	5	39	12	51	105%	75%	96%
7	淋菌感染症	5	3	8	11	3	14	2	1	3	8	1	9	7	2	9	7	0	7	8	1	9	5	2	7	3	0	3	1	1	2	1	1	2	3	1	4	61	16	77	100%	94%	99%
基	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7	1	8	4	2	6	8	6	14	10	2	12	4	3	7	4	4	8	4	3	7	2	1	3	4	2	6	8	1	9	9	4	13	4	6	10	68	35	103	103%	83%	95%
幹	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	0	3	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	1	0	1	8	0	8	133%	0%	80%
5	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	100%	—	100%	

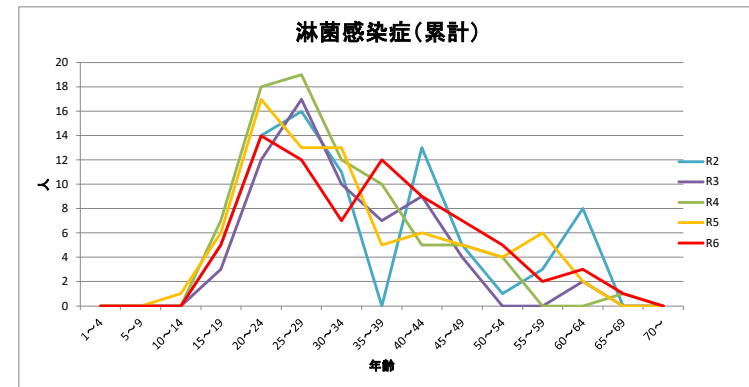
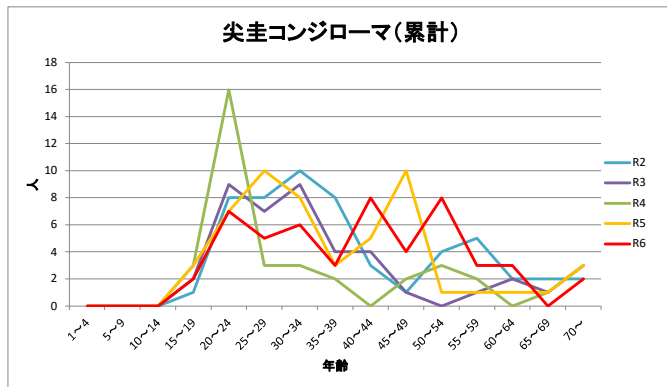
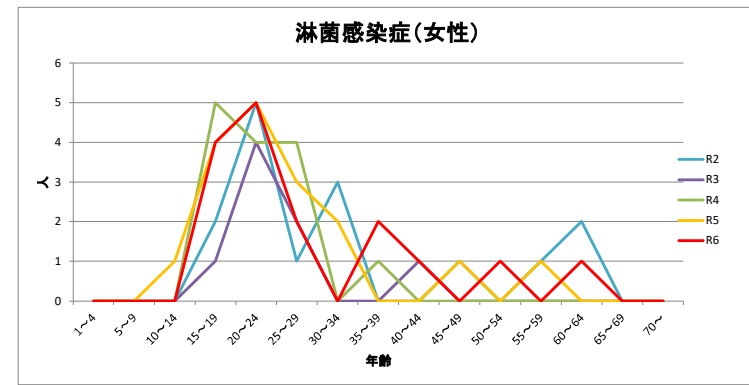
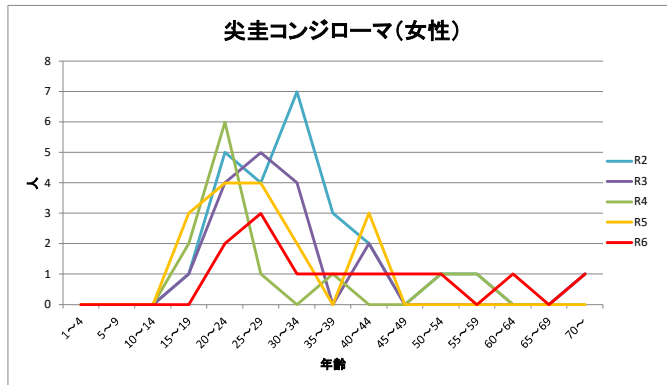
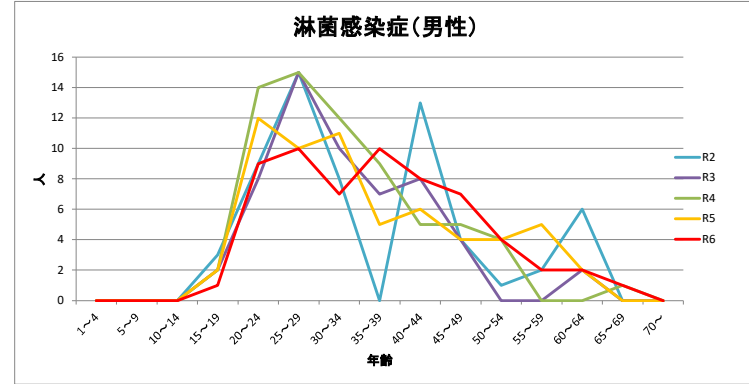
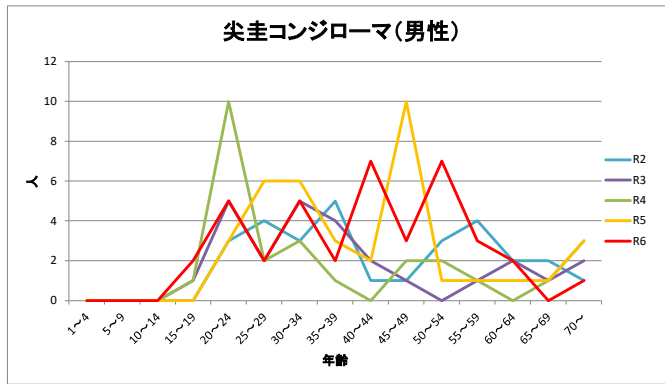
※各年毎に1月から12月の定点医療機関からの累計患者報告数です。



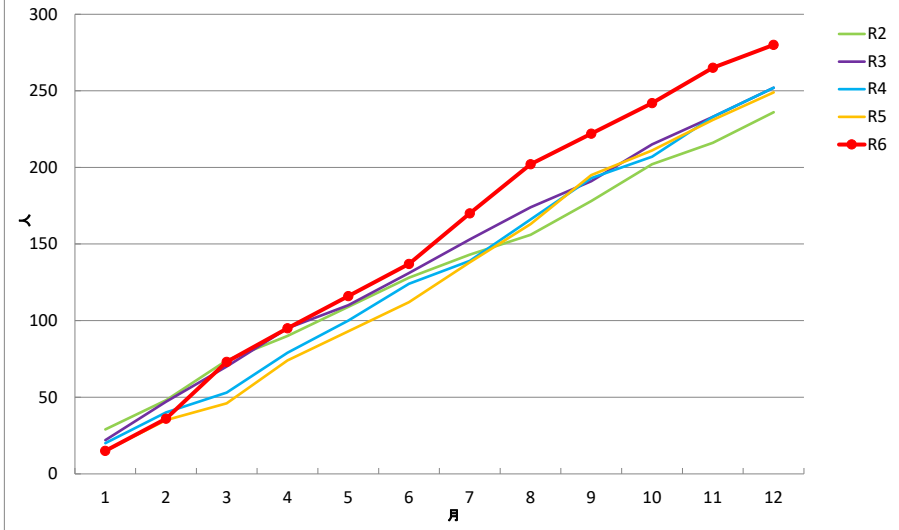
性感染症 年次別・年齢別・男女別累計グラフ



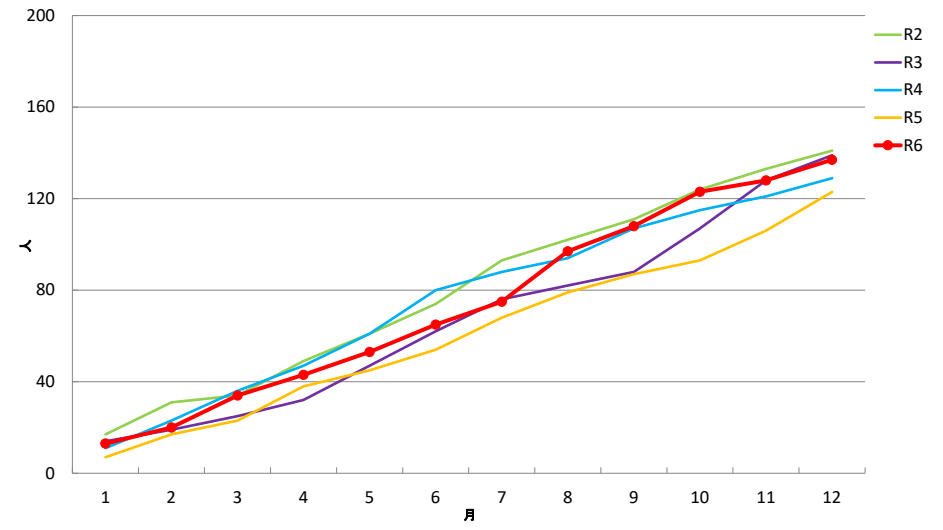
性感染症 年次別・年齢別・男女別累計グラフ



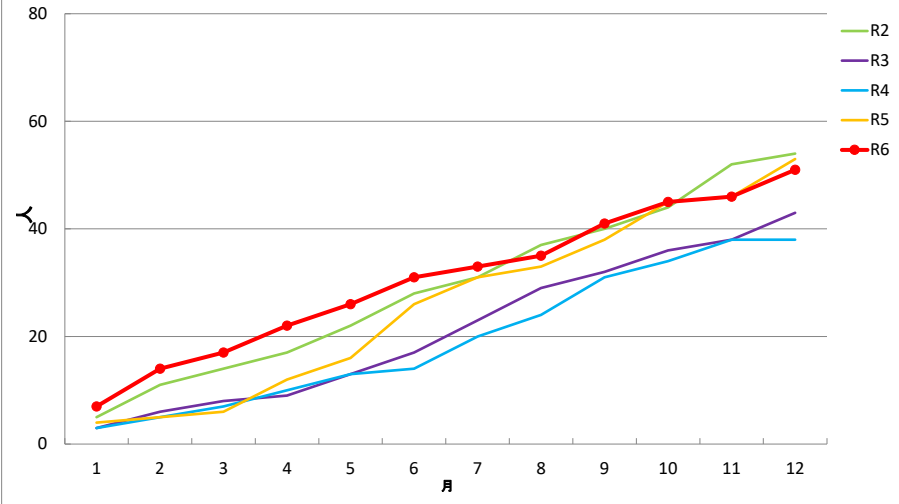
性器クラミジア感染症報告状況(累計)



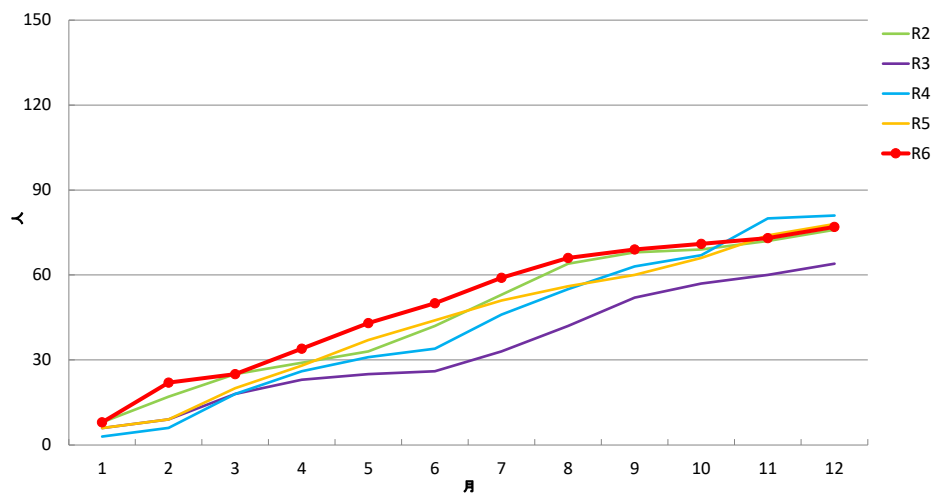
性器ヘルペスウイルス感染症報告状況(累計)



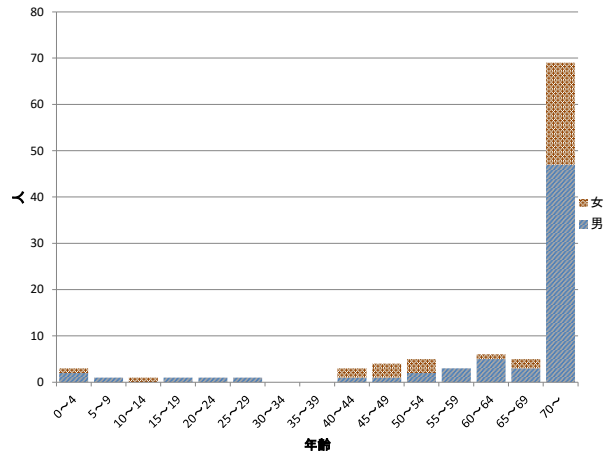
尖圭コンジローマ報告状況(累計)



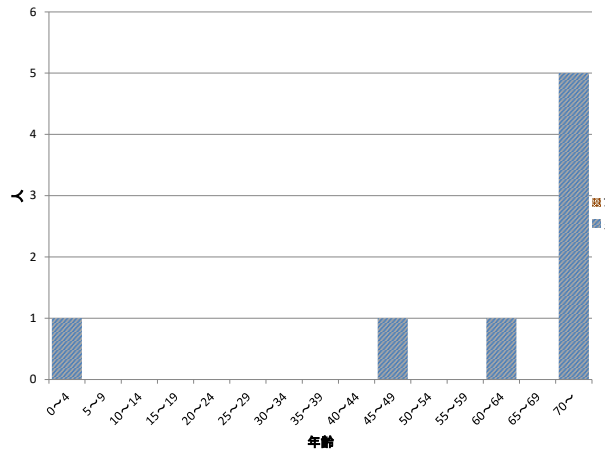
淋菌感染症報告状況(累計)



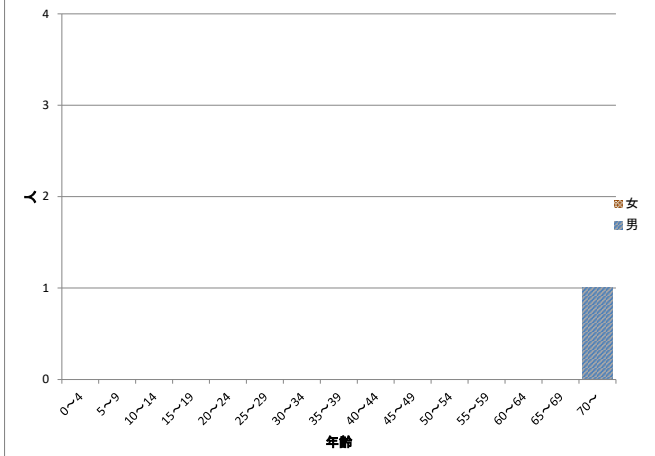
令和6年 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
(年齢別累計)



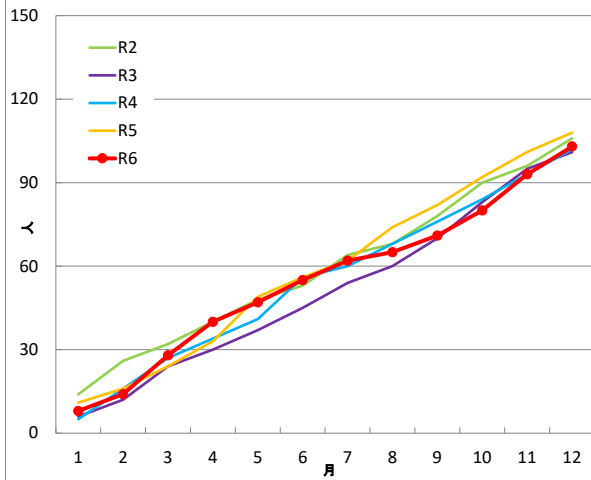
令和6年 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
(年齢別累計)



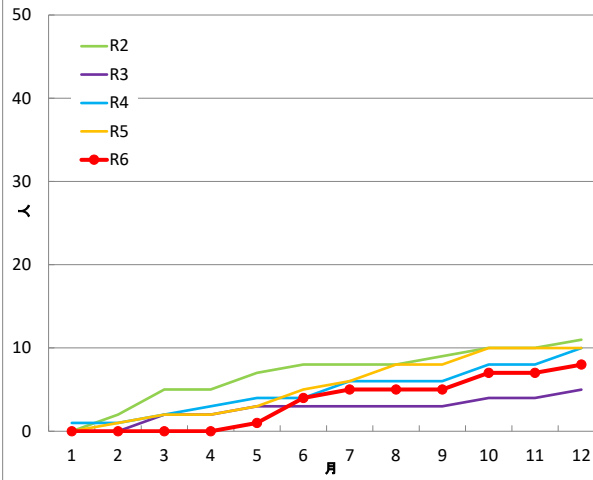
令和6年 薬剤耐性緑膿菌感染症
(年齢別累計)



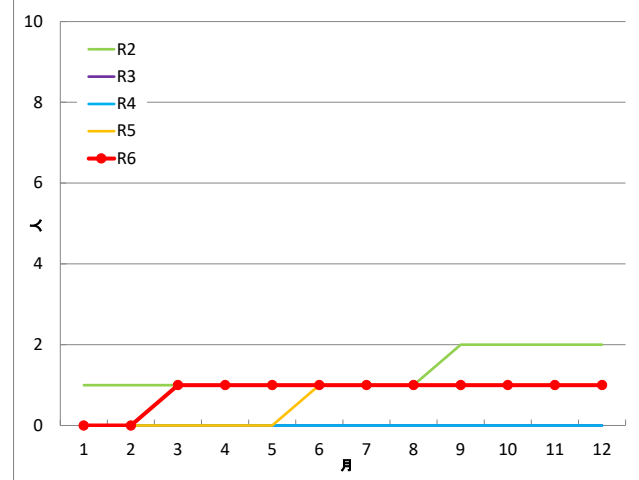
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症報告状況(累計)



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症報告状況(累計)



薬剤耐性緑膿菌感染症報告状況(累計)



鳥取県における感染症発生状況(全数報告分・令和6年)

令和6年12月31日 現在
※()は前年数値

(1)2類感染症

疾病名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計		
													12月時点	年間	
急性灰白髄炎													0	(0)	(0)
結核	3 (1)	2 (2)	5 (5)	6 (2)	3 (5)	6 (2)	1 (4)	7 (5)	5 (5)	2 (3)	5 (6)	5 (1)	50	(41)	(41)
潜在性結核 ※再掲	1		2 (2)	2	1 (1)	2	1	(2)	(1)		3 (1)	1	13	(7)	(7)
疑似症患者 ※再掲													0	(0)	(0)
ジフテリア													0	(0)	(0)
重症急性呼吸器症候群													0	(0)	(0)
中東呼吸器症候群													0	(0)	(0)
鳥インフルエンザ(H5N1)													0	(0)	(0)
鳥インフルエンザ(H7N9)													0	(0)	(0)

(2)3類感染症

疾病名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計		
													12月時点	年間	
コレラ													0	(0)	(0)
疑似症 ※再掲													0	(0)	(0)
細菌性赤痢													0	(0)	(0)
腸管出血性大腸菌感染症		1	1		5	2 (1)	1	3 (5)	1 (9)	3 (2)	3	1 (2)	21	(19)	(19)
腸チフス													0	(0)	(0)
パラチフス													0	(0)	(0)

(3)4類感染症

疾病名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計		
													12月時点	年間	
マラリア													0	(0)	(0)
E型肝炎							(1)						0	(1)	(1)
A型肝炎									1			1	2	(0)	(0)
つつが虫病				(1)							1		1	(1)	(1)
日本紅斑熱					1 (1)		1	2	2 (1)	2	(1)		8	(3)	(3)
重症熱性血小板減少症候群			(1)			1			1 (1)				2	(2)	(2)
レジオネラ症	(1)			(1)	2 (2)	1 (2)	1 (1)		1 (1)	1 (1)	2 (1)	1 (1)	9	(11)	(11)
レプトスピラ症													0	(0)	(0)
デング熱						(1)							0	(1)	(1)
チクングニア熱													0	(0)	(0)

(4)5類感染症

疾病名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計		
													12月時点	年間	
アメーバ赤痢			(1)	1		(1)	1			1 (1)	2		5	(3)	(3)
ウイルス性肝炎(E型・A型肝炎を除く)				(1)					1				1	(1)	(1)
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)				(1)									0	(1)	(1)
急性脳炎(ウエストナイル脳炎及び日本脳炎等を除く)	1 (1)			1	(2)			(1)		1		3	6	(4)	(4)
クリプトスポリジウム症		(1)											0	(1)	(1)
クロイツフェルト・ヤコブ病			1										1	(0)	(0)
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	(1)		2	1	(1)	(1)	1 (1)	(1)	3	1	(1)	11	(6)	(6)
後天性免疫不全症候群			(2)		(1)				1				1	(3)	(3)
無症候性キャリア ※再掲			(1)		(1)								0	(2)	(2)
AIDS ※再掲			(1)						1				1	(1)	(1)
侵襲性インフルエンザ菌感染症			1			1	(2)			(1)	1		3	(3)	(3)
侵襲性髄膜炎菌感染症													0	(0)	(0)
侵襲性肺炎球菌感染症	1 (1)	(1)	2 (1)	3	3	(2)	(2)	1		1 (1)	1	1	13	(8)	(8)
水痘(入院例に限る。)					1		1					(1)	2	(1)	(1)
梅毒	2 (1)	5 (6)	1 (1)	2 (4)	2 (3)	5 (4)	7 (1)	6 (1)	2 (4)	5 (1)	2 (2)	2 (1)	41	(29)	(29)
播種性クリプトコックス症			(2)	1									1	(2)	(2)
破傷風								1					1	(0)	(0)
薬剤耐性アシネトバクター感染症													0	(0)	(0)
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症		(2)	(1)	1	2				1	(1)	(4)		4	(8)	(8)
ジアルジア症													0	(0)	(0)
百日咳	5	6	2	1 (1)	1 (1)	7 (1)	37	55	54	113	59	43	383	(3)	(3)
麻しん						(1)							0	(1)	(1)
風しん													0	(0)	(0)

令和6年12月31日 現在

※()は健康保衛者

腸管出血性大腸菌感染症の発生状況

① 月別件数

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
													12月時点	年間
令和6年		1	1		5 (2)	2 (1)	1 (1)	3	1 (1)	3 (1)	3	1	21 (6)	21 (6)
令和5年						1		5	9 (3)	2 (2)		2 (1)	19 (6)	19 (6)
令和4年		2 (2)				1	2	3			3 (1)	3	14 (3)	14 (3)
令和3年	1		3 (2)	1 (1)	2 (1)	2 (1)	1 (1)					3	10 (6)	10 (6)
令和2年			1		2 (1)	7 (1)	2	3 (2)	7 (4)	3 (1)		1	26 (9)	26 (9)
令和元年		1	1 (1)		6 (1)	1	2		4 (1)	3 (2)	4	2 (2)	24 (7)	24 (7)
平成30年					3	1	4 (2)	9	4	1			22 (2)	22 (2)
平成29年	1 (1)			1	1 (1)	7 (3)	5 (2)	1			4 (3)	1 (1)	21 (11)	21 (11)
平成28年						5 (4)	3 (1)	6 (1)	1			1 (1)	16 (7)	16 (7)
平成27年						3 (2)	33 (23)	12 (7)	10 (6)	1 (1)	1		60 (39)	60 (39)
平成26年						7 (4)	1	1	1	5 (3)			15 (7)	15 (7)
平成25年		1 (1)			1		6	7 (3)	4 (1)	7 (2)			26 (7)	26 (7)
平成24年						2	1	5 (1)		6 (2)		1	15 (3)	15 (3)
平成23年				1	5 (2)	3 (2)		2 (1)	3 (1)	4 (2)	1	1	20 (8)	20 (8)

② 血清型別件数

区分	O8	O26	O29	O55	O91	O103	O119	O111	O121	O125	O128	O145	O146	O157	型不明	計
令和6年		1		2 (2)				2					1 (1)	13 (1)	2 (2)	21 (6)
令和5年		1 (1)												17 (4)	1 (1)	19 (6)
令和4年						3							2 (2)	8	1 (1)	14 (3)
令和3年						4 (2)							1 (1)	3 (1)	2 (2)	10 (6)
令和2年	1	4 (2)	1		4 (2)			3 (1)		1 (1)	1		1 (1)	7	3 (2)	26 (9)
令和元年					3 (1)			4 (1)						15 (3)	2 (2)	24 (7)
平成30年		2				3						1		16 (2)		22 (2)
平成29年		1				2 (1)		4 (3)					1 (1)	10 (3)	3 (3)	21 (11)
平成28年		1 (1)												14 (5)	1 (1)	16 (7)
平成27年		40 (28)			1	4 (2)		1					1 (1)	9 (4)	4 (4)	60 (39)
平成26年		7 (4)						5 (3)						3		15 (7)
平成25年		3 (1)							1					21 (5)	1 (1)	26 (7)
平成24年														15 (3)		15 (3)
平成23年		9 (4)				2 (1)								7 (2)	2 (1)	20 (8)

③ 年齢別件数

区分	～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
令和6年	3	3	1	3 (2)	5 (1)		2 (1)	1 (1)	2 (1)	1		21 (6)
令和5年	1	2 (1)	1	1	4 (1)	2 (1)	4 (3)	2			2	19 (6)
令和4年	5	1	2	1	1	2 (1)				2 (2)		14 (3)
令和3年	1		1 (1)		1 (1)			1 (1)	1 (1)	3 (2)	2	10 (6)
令和2年	7	2	2	2	1 (1)	4 (4)	3 (1)	3 (3)			2	26 (9)
令和元年	9 (2)	2			4 (3)	2		1 (1)	3 (1)	3		24 (7)
平成30年	2	2			10 (1)	3 (1)	1	2	1		1	22 (2)
平成29年	3 (1)	1	2 (1)	2 (1)		2 (2)	2 (2)	4 (3)	4 (1)		1	21 (11)
平成28年	4	4 (3)		1	2 (1)	3 (2)	1 (1)				1	16 (7)
平成27年	22 (13)	18 (12)	2 (1)	2 (2)	4 (4)	6 (3)	1 (1)	3 (2)			2 (1)	60 (39)
平成26年	6 (1)	3 (1)				2 (2)	2 (2)	1		1 (1)		15 (7)
平成25年	6	2	3 (1)	1	3 (1)	1	2 (1)	1 (1)	2 (1)	3 (1)	2 (1)	26 (7)
平成24年	3	3 (1)	3	1	2	2 (2)			1			15 (3)
平成23年	4 (1)	5			3 (1)	3 (2)		1 (1)	2 (2)	1	1 (1)	20 (8)

④ 地区別件数

区分	東部地区	中部地区	西部地区	計
令和6年	2	6 (1)	13 (5)	21 (6)
令和5年	3	7 (1)	9 (4)	19 (6)
令和4年	5	6 (1)	3 (2)	14 (3)
令和3年	4	3 (2)	3 (2)	10 (6)
令和2年	3	15 (5)	8 (4)	26 (9)
令和元年	6	14 (3)	4 (1)	24 (6)
平成30年	7	5	10 (2)	22 (2)
平成29年	1	8 (4)	12 (7)	21 (11)
平成28年	2	12 (5)	2 (1)	16 (7)
平成27年	4	45 (31)	11 (4)	60 (39)
平成26年	1	8 (4)	6 (3)	15 (7)
平成25年	4	9 (3)	13 (3)	26 (7)
平成24年	7	1	7 (1)	15 (3)
平成23年		2 (1)	18 (7)	20 (8)

鳥取県病原微生物検出情報（令和6年12月検出分；検体採取 令和6年10,11,12月）

令和7年1月17日
鳥取県衛生環境研究所

1 インフルエンザ

臨床診断名がインフルエンザの10検体（検体採取12月上旬・中旬・下旬）について検査を実施したところ、A(H1)pdm09が9検体検出された。1検体は陰性だった。

表1 2024/2025シーズン鳥取県インフルエンザ検出情報

検体採取時期		検体採取場所	検出数	A型別、B系統別					備考
年	月日			A(H1N1)pdm09型	A H3型	B victoria	B 山形	B 系統不明	
2024	9月3日	西部	1	1	0	0	0	0	
	11月6日	西部	1	1	0	0	0	0	
	11月14日	西部	1	1	0	0	0	0	
	11月15日	西部	1	1	0	0	0	0	
	11月19日	西部	1	1	0	0	0	0	
	12月2日	中部	2	2	0	0	0	0	
	12月3日	西部	1	1	0	0	0	0	
	12月9日	西部	1	1	0	0	0	0	
	12月16日	西部	1	1	0	0	0	0	
	12月18日	西部	1	1	0	0	0	0	
	12月20日	東部	1	1	0	0	0	0	
	12月20日	西部	1	1	0	0	0	0	
12月23日	西部	1	1	0	0	0	0		
病原体定点PCR検査合計 (2024/9/2～現在)			14	14	0	0	0	0	

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（1月9日作成）によると、2024/25シーズンはA(H1)pdm09型が最も多く検出されており、次いでA(H3)型が検出されている。

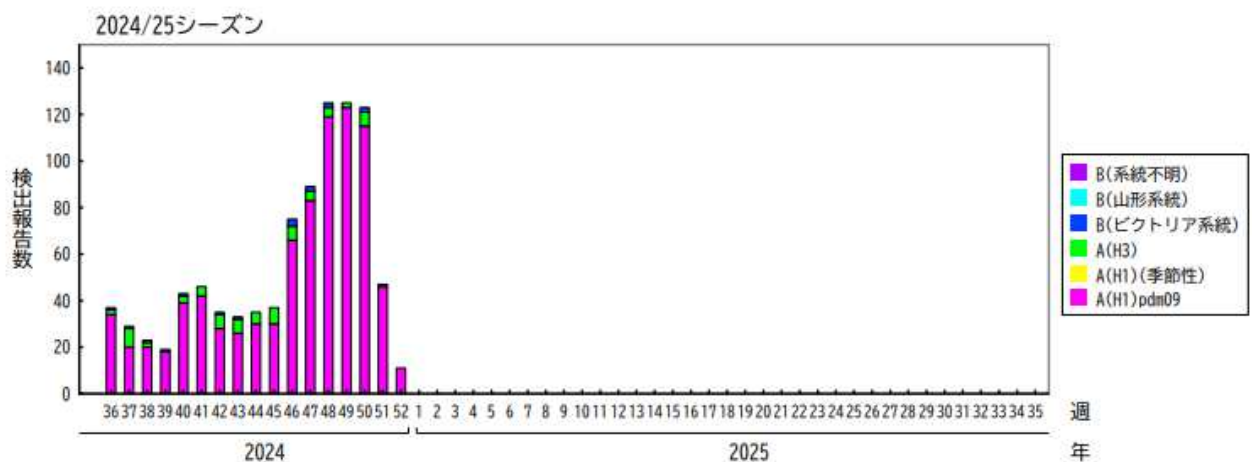


図1 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数（2024/25シーズン）

出典：国立感染症研究所病原微生物検出情報（2025年1月9日作成）

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の5検体について検査を行ったところ、アストロウイルスとアデノウイルス（型不明）が1検体から、アストロウイルスが1検体から検出された。他の3検体はノロウイルス、サポウイルス、A群ロタウイルス、C群ロタウイルス、アデノウイルス（40/41型）、アストロウイルスのいずれも検出されなかった。

3 ヘルパンギーナ

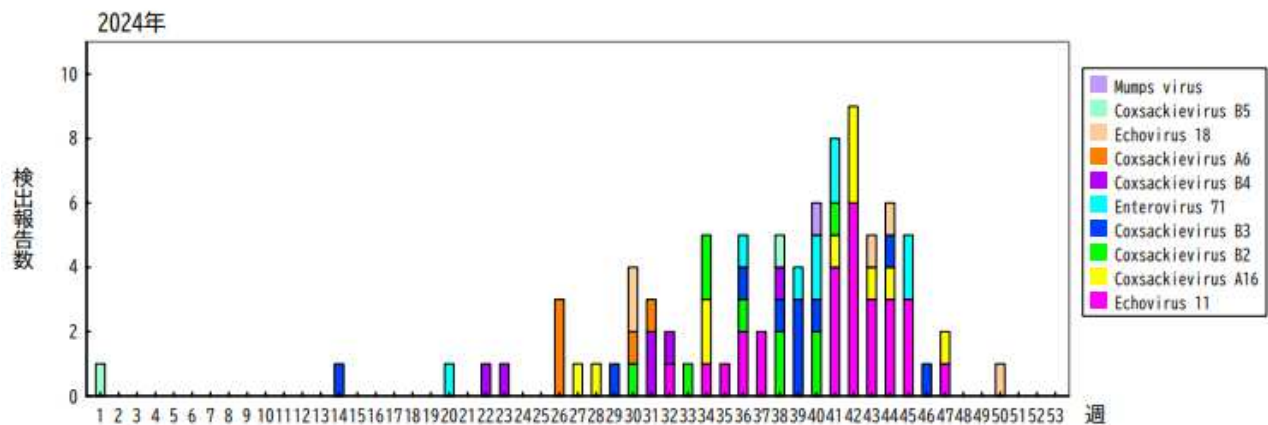
臨床診断名がヘルパンギーナの1検体について検査を行ったところ、エンテロウイルス（型不明）が検出された。

4 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の2検体について検査を行ったところ、アデノウイルス（D種）が1検体から、アデノウイルス（型不明）が1検体から検出された。

5 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎の1検体（新生児・先月便について報告した患者と同一患者）について検査を行ったところ、髄液からエンテロウイルス（エコーウイルス11型）が検出された。



出典：国立感染症研究所 IASR 速報グラフ 週別無菌性髄膜炎患者からの主なウイルス分離・検出報告数、2021～2025年（2025年1月9日作成）より抜粋

新型コロナウイルスゲノム解析結果

令和7年1月17日
鳥取県衛生環境研究所

- 検体搬入日：2025年1月8日（水）
- 解析件数：36件（搬入件数：36件）
- 結果概要：XEC系統（KS.1.1とKP.3.3の組換系統）：16件（50%）（解析不能は計算から除外）
KP.3系統（JN.1亜系統）：12件（38%）

表1 鳥取県新型コロナウイルスゲノム解析結果（検体採取日：12月6日～1月7日）

系統	Lineage (pangolon)	件数	備考	前回の検出数
KP.3系統	KP.3.1系統	8	JN.1の亜系統	5
	KP.3.3系統	4	KP.3.1系統には子孫系統のMC系統を含む	4
KP系統（KP.3以外）	KP.1系統	1		4
組換系統	XEC系統	16	KS.1.1とKP.3.3の組換系統	4
	XEL	0	KS.1.1.2とJN.1の組換系統	1
	XEK	1	KP.2.3とXECの組換系統	1
	XDY	2	LB.1.2.1とKP.3.2の組換系統	0
	解析不能	4		2
	合計	36		21

※赤字の系統：現在流行中の注目すべき変異株（VOIs）（WHO指定）（2024.12.2更新）→JN.1系統

※青字の系統：現在流行中の監視下の変異株（VUMs）（WHO指定）（2024.12.9更新）→KP.2, KP.3, KP.3.1.1, JN.1.18, LB.1, XEC

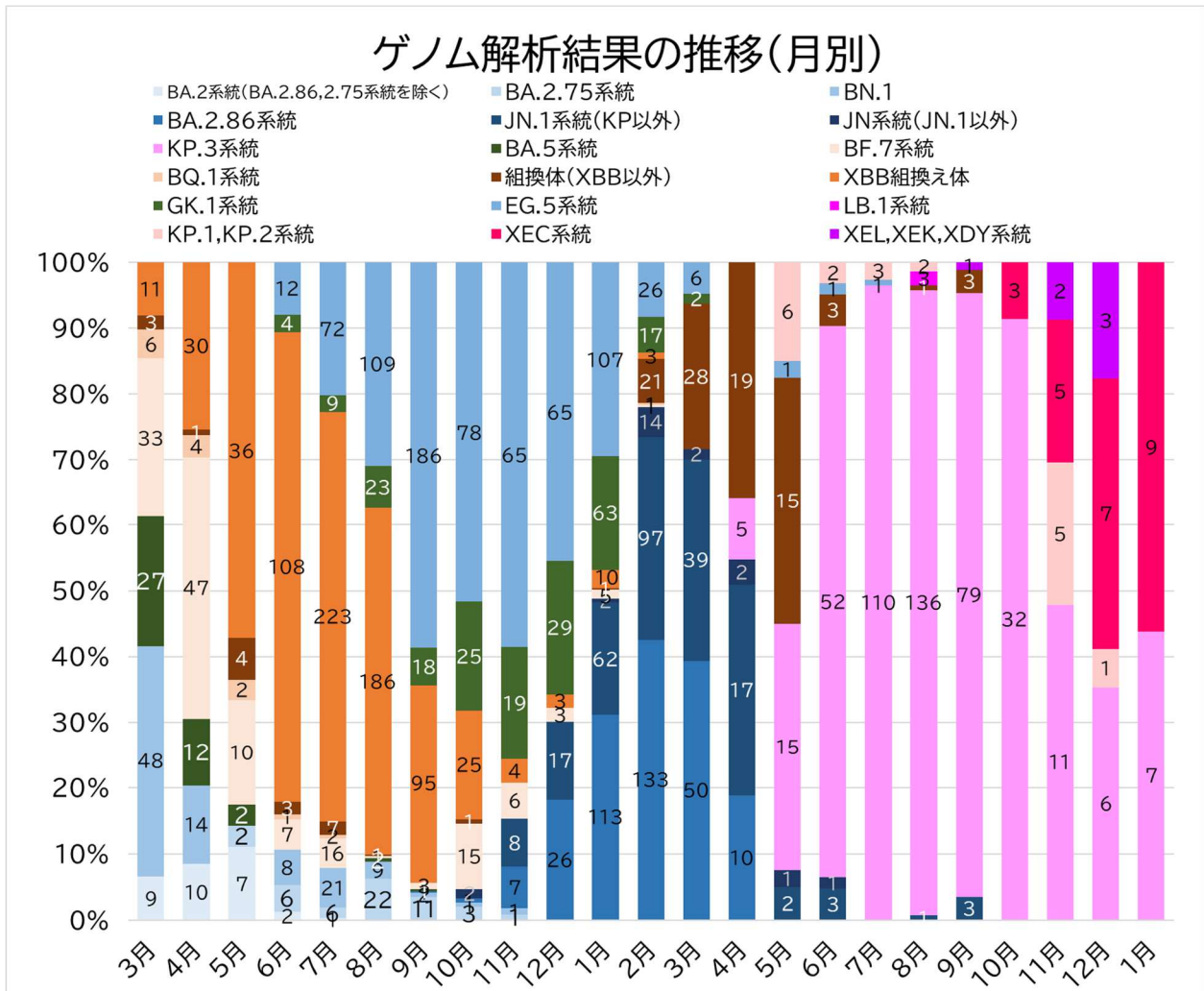


図1 月別新型コロナウイルスゲノム解析結果（2023/24/25シーズン）

